

Niigata

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00053504

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



15. 新潟県 追補

石沢 進(〒956-0816 新潟市秋葉区新津東町2丁目5番6号 新津地域学園内 積雪地域植物研究所)

(A) 植物誌

新潟県の植物相を明らかにする目的で『新潟県植物目録 [チェックリスト] (予報) 維管束植物・コケ植物』を新潟県植物目録編集委員会(2005)で刊行し、その改訂版を作成中であるが、発刊するに至っていない。長年県内の植物相の研究をされていた故池上義信先生の植物資料が植物同好じねんじょ会に寄贈され、その中に同先生のまとめた『新潟県植物誌』の遺稿が残されていることを知った。その遺稿を新潟県植物誌として『じんねんじょ 特別報告第2号』(2010)に掲載した。

2003年以降、県内の市町村史の自然編の中で植物相をまとめた市町村は、南魚沼郡湯沢町(2005)、東蒲原郡阿賀町(2008)などがある。県内の地域を限定して植物相をまとめたものとして『岩船郡山北町大毎(現村上市)吉祥嶽の植物』(柴田治 2006)、『岩船郡関川村米沢街道の植物』(柴田治 2009)、『南魚沼市大和西山の植物』(富永弘 2009)、『妙高山笹ヶ峰の維管束植物』(石沢進 2009. じんねんじょ 27号)などが出版されている。一般向けに書かれた県内の図書は、『ふるさとの花—三和村の山野草』(2003 長谷川康雄)、妙高市教育委員会による『妙高の山野の植物』・『大毛無山の植物ガイド』(五百川裕・長谷川康雄監修 2012)などがある。「日本古来の薬用植物と民間療法」(石沢五男監修 2011)が刊行され、また、『新潟県のきのこ』(宮内信之助 2010)がまとめられている。

ユキツバキは「新潟県の木」であることから、それに関する情報を盛り込んだモノグラフ『新潟県の木 雪椿』(石沢進編 2010)を公表している。

(B) 研究機関

新潟大学では、森田龍義氏によりタンポポ属・ニガナ属など、志賀隆氏によるコウホネ属を含む水生植物、上越教育大学では五百川裕氏により妙高市・上越市の植物などに関する進行中である。また、新潟薬科大学では白崎仁氏による蘚苔類の分布や生態に関する研究が進められている。

長岡市立科学博物館では、『長岡市立科学博物館研究報告』の第47号、『NKH(長岡市立科学博物館報)』のNo.96を2012年に刊行している。櫻井幸枝氏によるシソ科のアキギリ属の研究や地域の植物相の調査が進められている。

新潟県生物教育研究会の『新潟県生物教育研究会会誌』は2012年に47号を数え、県内の植物に関連

する文献を年次ごとに紹介している。

新潟市秋葉区の積雪地域植物研究所(新津植物資料室)では、『新津植物資料室年報2002~2011』(2003~2012)を刊行し、新津丘陵の植物と県内の植物の追加など掲載している。発足以来10年を経過したので、『年報2001~2010』に掲載した植物の総索引(分類順、アイウエオ順)を『年報2011』(2012)にまとめている。

(C) 標本庫

標本庫に関する新たな動きはなく、各研究機関で追加蒐集を行っている。ただし、新潟大学の標本は現在積雪地域植物研究所(新津植物資料室)で保管している。

(D) レッドデータブック

新潟県は2001年出版の『レッドデータブック新潟』の改訂のため、2010年に見直し調査をおこなったが、その結果に基づく改訂は、2012年度に予定している。

上越市では、『上越市における絶滅のおそれのある野生生物(上越市レッドデータブック普及版)』と大切になりたい上越市の生きもの(上越市レッドデータブック普及版)を2011年に合わせて刊行している。新潟市秋葉区の積雪地域植物研究所(新津植物資料室)では、『新津丘陵とその周辺地域における絶滅危惧植物』について2012年に出版している。

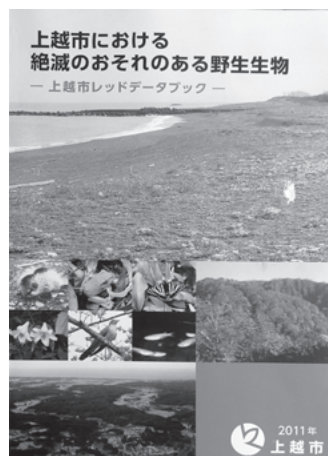


図 上越市における絶滅のおそれのある野生生物

(E) 植物群落

新潟県生態研究会では、会誌『新潟県生態研究会誌』のNo.6(2004)、No.7(2006)、No.8(2010)などで、特定地域の植物群落について報告している。